

令和6年度
小松市未来型図書館等複合施設基本計画策定支援業務

第1章 基本計画の目的

2025年1月8日(水)



1-(1). 基本計画の目的

小松市の現状と課題

小松市立図書館

小松市立図書館の施設概要

所在地	小松市丸の内公園町19
開館日	昭和56年11月(42年経過)
構造	鉄筋コンクリート2階建、一部3階建
面積	建築面積1,158㎡、延床面積1,840㎡、
主な諸室	書架(一般、児童)、視聴覚室、親子読書室、郷土資料室等
駐車場	32台(一般30台、障がい者等2台)
開架冊数	約130,000冊(一般約90,000冊、児童約40,000冊)
閉架冊数	約70,000冊
蔵書冊数	205,004件(令和6.3.31時点) (一般107,343件、児童52,935件、その他43,471件、AV1,255件)
職員数	10名(令和6.4.1時点) (正規職員4名(うち司書2名)、臨時職員6名(うち司書4名))
開館時間	平日10:00～19:00、12月～2月は10:00～18:00 土日祝9:00～17:00
休館日	月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始(12/30～翌1/3)、特別整理期間
管理運営	市直営

小松市の現状と課題

小松市立図書館

小松市立図書館の課題と求められる役割

- **空間と設備**: 現在の図書館は建物が古く、閲覧席、学習スペース、交流スペースが不足していることから、多様な利用者ニーズに十分応えられていません。多様な活動へのニーズに対応したスペースの確保が求められています。
- **サービス**: 本を読むだけでなく、次代のニーズや社会情勢を反映したテーマ性を設けた本棚構成や展示等の工夫・改善、AI活用等による利便性向上が求められています。
- **デジタル化**: 郷土資料など資料のデジタル化が進んでおらず、時代に合ったデジタルサービスの提供が求められています。
- **運営体制**: 広がる業務に対応できる体制がないという課題があります。市民協働や官民連携による共創型の運営ネットワークの構築が期待されています。
- **施設連携**: 資料や教育プログラムのより効果的な共有や、司書・学校司書間の連携等における、南部図書館、空とこども絵本館、学校図書館、その他公共施設との役割分担と緊密な連携が求められています。
- **社会への対応**: 多様性社会(年齢、性別、国籍、文化、宗教、障がいの有無、性的指向など、さまざまな背景や価値観を持つ人々が共に暮らし、互いを尊重しながら協力していく社会)に対応した居場所づくりが求められています。また、読書バリアフリーやアクセシブルブックの導入に加え、空間やコミュニケーションなどにおけるバリアフリー化が必要です。多様な情報(デジタル、アナログ)にアクセスできる環境を整備することが求められています。



イメージ

イメージ

小松市の現状と課題

小松市立博物館

小松市立博物館の施設概要

所在地	小松市丸の内公園町19番地
開館日	昭和45年(53年経過)
構造	鉄筋コンクリート造3階建て
面積	建築面積868㎡、延床面積2,053㎡
主な諸室	展示室(人文・自然科学資料、石の文化等)、市民ギャラリー
駐車場	市役所等周辺駐車場を利用
開館時間	9:00～17:00(入館は16:30まで)
休館日	水曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌日(土日の場合は開館) 展示替え期間、年末年始(12/29～翌1/3)
利用料金	個人300円 団体(20名以上)250円
管理運営	市直営

小松市の現状と課題

小松市立博物館

小松市立博物館の課題と求められる役割

- 空間と設備: 限られたスペースで効果的な展示や保存ができるよう、工夫が求められています。博物館資料の保存には、温度管理や動線設計など専門的な設備が必要です。適切な保存環境を整えつつ、効率的な施設設計を進めることが重要です。
- サービス: 多様な世代が楽しめる展示内容への拡充が期待されています。図書館の資料・書架と博物館の展示を組み合わせた融合型の幅広い展示や、時代を映すポップカルチャーとの接続による刺さるコンテンツなど、幅広い層の興味を引き出します。市民が歴史や文化を語り合える場の提供が求められています。
- デジタル化: 約6万件に及ぶ資料の効果的な取り扱いや、増え続ける資料のデータ化について、適切なタイミングと方法を検討する必要があります。デジタルアーカイブとして整備していくとともに、ユーザーにとって使いやすいインターフェースや、既存のポータルサイト・アプリの活用など、情報発信を強化が求められています。
- 運営体制: 職員が持つ調査・研究への意欲や専門性を活かすとともに、共創型の運営ネットワークの構築が期待されています。
- 施設連携: 市内の他施設との連携により、地域全体で資料を共有・保存し、地域全体で文化を発信・学習していくためのしくみを構築することが必要となります。
- 社会への対応: 多様性社会に対応するために、さまざまな人々が楽しめる展示やプログラムを企画し、多様なニーズに柔軟に応えることが求められています。



イメージ

イメージ

上位計画との関係

小松市2040年ビジョン(令和5年11月策定)

- 市制100周年の節目を迎える2040年の未来に向けて、目指すべきまちの姿や市政の方向性を6つの都市像ごとにわかりやすくイメージ化しています。6つの都市像のうち「vision6 ワンランク上の生活空間あふれるこまつ」において、未来型図書館はまちづくりのキーステーションに位置付けられています。
- ワンランク上の生活空間あふれるこまつ：“暮らしのあらゆるシーンで、他を上回る快適さ・便利さ・幸福感。まちに笑顔があふれるクオリティ・オブ・ライフ”
- まちなかに文化が花咲くやすらぎ空間
 - 歴史・文化・教養・自然が融合した芦城公園では、既存の文化施設が集約・配置され、そのコア施設が未来型図書館
 - みんなで創り上げた未来型図書館では、さまざまな活動や出会いが生まれ、まちづくりのキーステーションに。
 - 芦城公園で過ごす時間と空間のすべてが、ワンランク上と実感できます。



出典:小松市 | 小松市2040年ビジョン



上位計画との関係

小松市都市計画マスタープラン(平成31年3月策定、令和元年12月公表)

- 将来都市構造図において、芦城公園一帯を含む小松駅周辺は都市再生ゾーンとされ、多様な都市機能の集積を促進、「学び」や「ものづくり」などを活かした活力増進、多様な行政・公益ニーズに効率的に応える拠点整備の方向性が示されています。

小松市立地適正化計画(平成29年3月策定、平成31年3月改訂)

- 交通結節点での都市機能の維持・充実による魅力・賑わいの創出に向けて、都市機能誘導区域(小松駅地区)が設定されている。また、この区域に誘導する施設(都市機能誘導増進施設)として教育や文化施設等が想定され、右下図版の位置付けがされています。

小松市公共施設マネジメント計画(平成26年12月策定、令和4年3月改訂)

- 施設類型別のマネジメントの考え方が示されており、未来型図書館の施設類型として「市民文化系施設、社会教育系施設」が想定され、以下の基本的な方針が示されています。

① 市民文化系施設、社会教育系施設

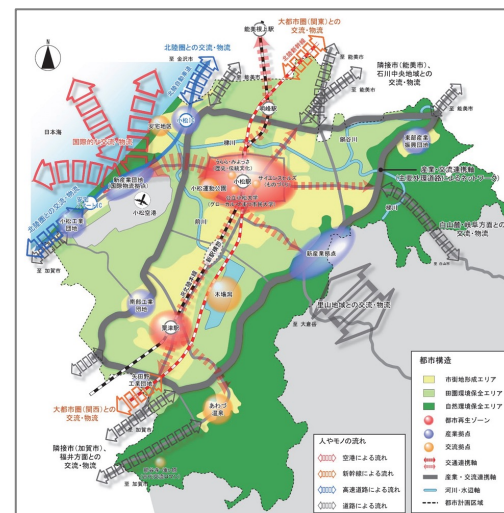
維持保全の推進とともに、利用形態の見直しや複合化・再配置等を検討

検討対象・テーマ(例)

- 芦城公園一帯の施設群

〔公会堂[昭和34年造]、博物館[昭和43年造]、市立図書館[昭和56年造]等〕

出典:小松市 | 小松市公共施設マネジメント計画



出典:小松市 | 小松市都市計画マスタープラン

■ 立地適正化計画推進の観点から目指すべきまちづくりの方針

都市の現況、将来見通し等の分析にみる課題

- 【人 口】市街化区域内の人口密度の低下、長寿社会への対応
- 【土地利用】市街地の空洞化や地域の活力・魅力の低下、生活利便性の低下
- 【都市交通】公共交通の利便性の低下、公共交通における市の財政負担の増加
- 【災害】防災体制の整備・強化
- 【財政】公債費の削減、社会保障費の増大

など

上位関連計画等における課題や都市政策の方向性 (P5~17 参照)

- ・広域交通機能の充実と活用
- ・空港と高速道路・鉄道の接続の強化
- ・定住と交流の増大
- ・新幹線小松駅周辺の都市機能の強化
- ・暮らしや長寿社会への対応
- ・小松市民病院の医療拠点の強化
- ・暮らしを支える快適な移動手段の確保
- ・災害に強い安全な都市空間の形成

など

これらの課題や都市政策の方向性の解決を踏まえ、
立地適正化計画におけるまちづくりの方針を検討

立地適正化計画におけるまちづくりの方針(ターゲット)

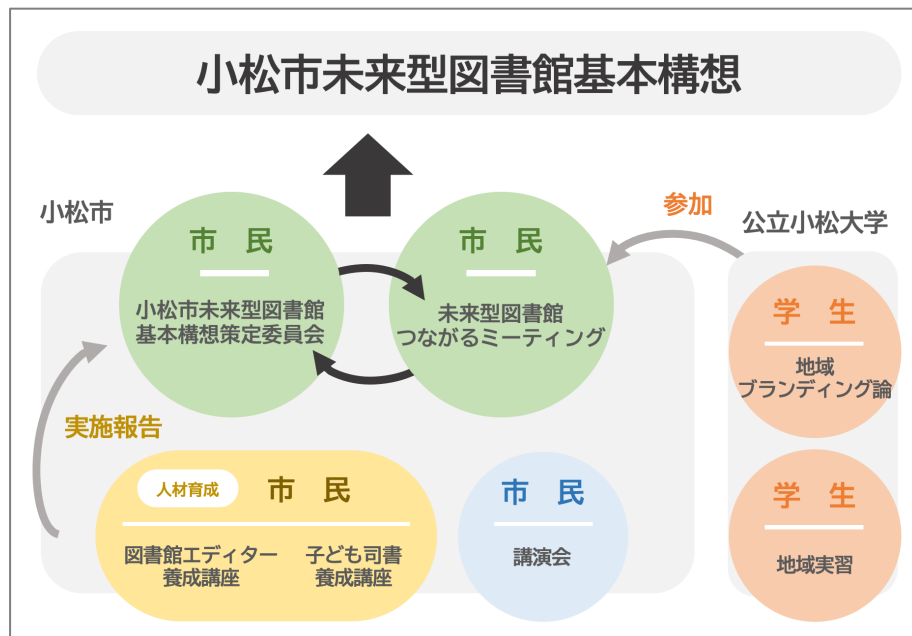
- 交通結節点での都市機能の維持・充実による魅力・賑わいの創出
- 市街地の暮らしやすさの維持・向上
- 市内公共交通の充実、利便性の向上

出典:小松市 | 小松市立地適正化計画

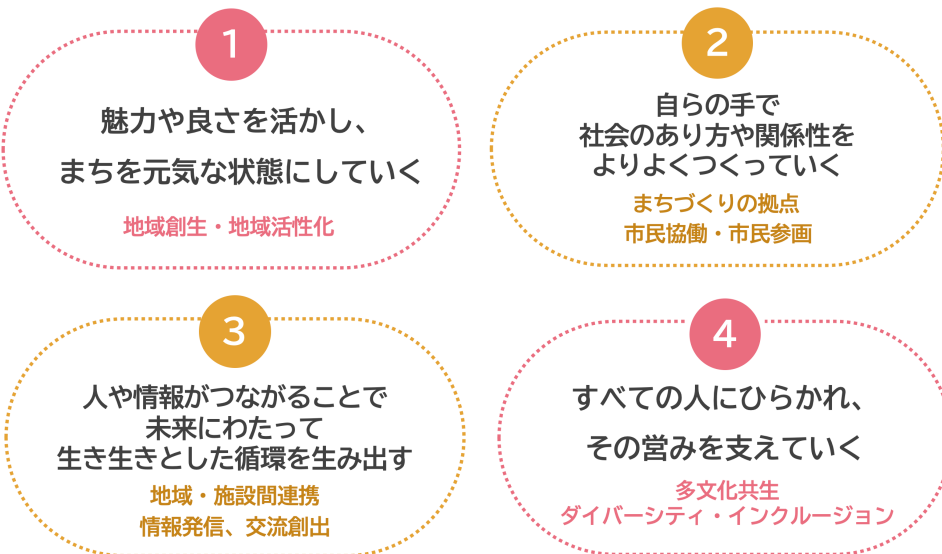
基本構想

小松市未来型図書館基本構想(令和5年3月策定)

- 基本構想策定委員会及び市民ワークショップを通じて、市民の想いやアイデアを共有しながら、ビジョンやコンセプトとして言語化するとともに、必要と考えられる役割や最適な立地エリアの選定など未来型図書館の基本方針となる基本構想を策定しました。基本構想では、未来に起こる変化の中で、絶えずつくり続けていくかたちとして、「共創」を重視しています。共創とは、多様な立場の人が対話をしながら、ともに新しい価値を生み出していく考え方のことです。さらなる共創の実践に向けて、市民・行政が一体となって取り組み、相互的に検討を進め、継続的・持続的な関わりを持ちながら取り組んでいます。



基本構想検討における4つのポイント



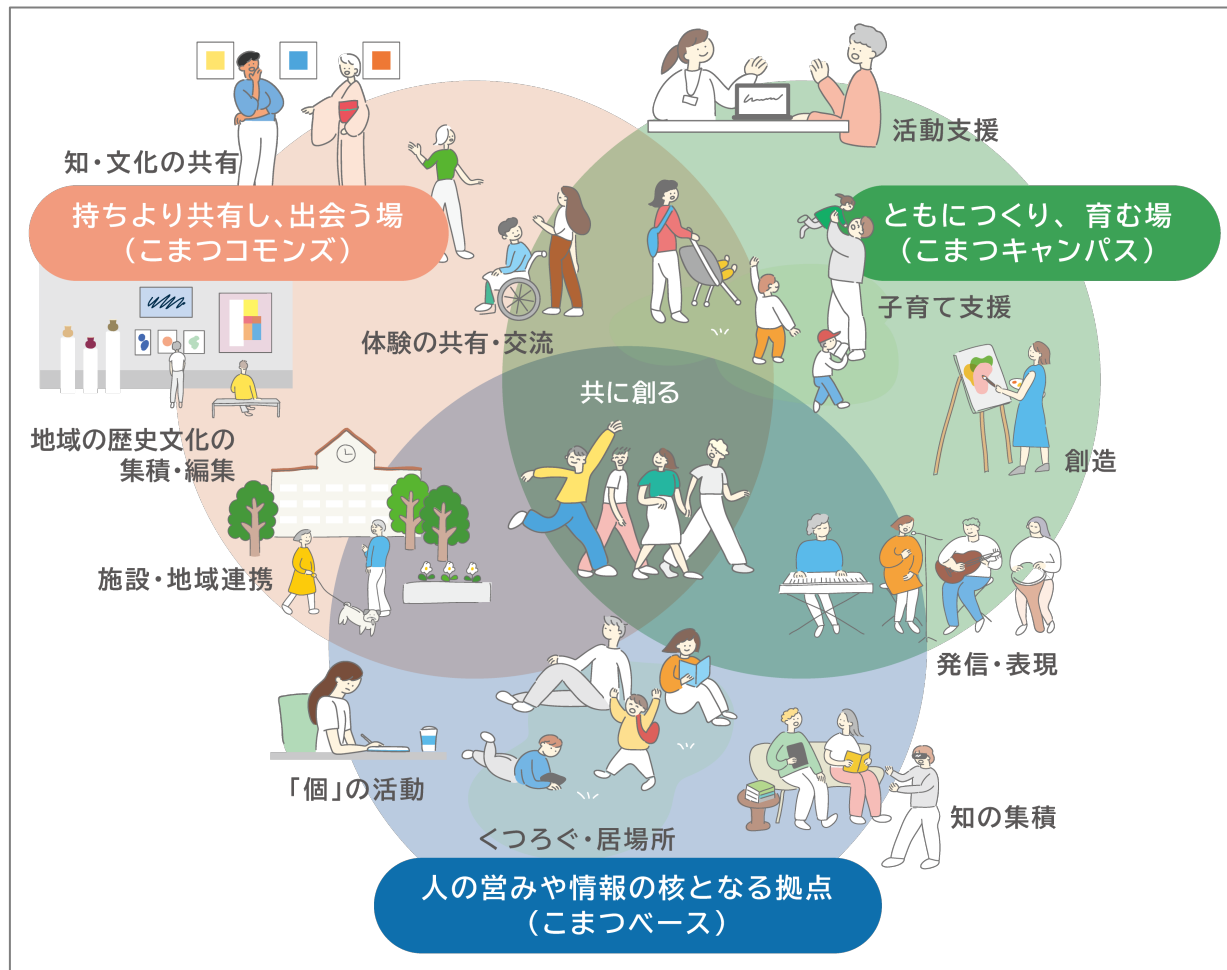
出典:小松市 | 小松市未来型図書館基本構想

基本構想

小松市未来型図書館基本構想(令和5年3月策定)

未来型図書館の役割(機能)イメージ

- 未来型図書館を通した「知る」「学ぶ」「交流する」などさまざまな体験がどのようなものであるべきかという視点のもと、検討を行いました。その結果、未来型図書館において必要と考えられる役割(機能)は右図のとおりです。
- ビジョン・コンセプトについては次節「1-(2). ビジョン・コンセプトに基づく基本方針」にて説明します。



出典:小松市 | 小松市未来型図書館基本構想

事業方針

小松市未来型図書館等複合施設官民連携事業調査報告書(令和6年3月策定)

- 令和4年度に立地エリアとして決定した「芦城公園周辺」における未来型図書館等複合施設の整備に向けた具体的な立地場所の選定をはじめ、経年による老朽化や機能・用途のあり方が課題とされてきた小松市公会堂、小松市立博物館、小松市立図書館を中心とした公共施設の集約・再編や機能の見直しを行いました。その上で、未来型図書館のビジョン・コンセプトを実現する機能、官民連携事業による事業の可能性等、さまざまな事業課題について、市民との共創のもとに調査・検討を実施しています。

■ 未来型図書館

事業場所	小松市公会堂跡地を含めた一団の土地(芦城公園内:丸の内公園町32番地) 敷地面積:約6,800㎡
事業の対象施設	図書館等複合施設「未来型図書館」 建築面積:約4,000㎡ 延床面積:約9,000㎡ 主な施設機能: 図書館、展示室、会議室、多目的室、キッチンスタジオ、市民ギャラリー、創作スタジオ、音楽スタジオ、ティーンズスタジオ、リビングラボ等
事業方式	DBO方式またはPFI手法(BTO方式)
事業形態	サービス購入型、一部利用料収入による混合型、独立採算型を含む
事業期間	設計・建設期間(約3年)＋維持管理運営期間(約15年)
事業の対象範囲	未来型図書館の設計、建設、維持管理、運営(民間収益施設部分を含む)

事業方針

小松市未来型図書館等複合施設官民連携事業調査報告書(令和6年3月策定)

■ 既存施設の跡地利用

事業場所	図書館跡地(芦城公園内:丸の内公園町19番地) 博物館・教育研究センター跡地(芦城公園内:丸の内公園町1番地・19番地)
事業の対象施設	園路及び広場または便益施設(飲食店・売店、便所等)
事業方式	設置管理許可またはPark-PFI
事業期間	10年間または20年間(Park-PFIの場合)

■ 駐車場の整備・管理運営

事業場所	小松市役所来訪駐車場①(小松市小馬出町91)
事業の対象施設	立体駐車場の整備を想定
事業方式	サービス購入型のPFI等、独立採算ではない方式と想定

基本計画の目的

- これまでの基本構想(令和4年度)及び事業方針(令和5年度)を踏まえ、複合施設における機能・規模の具体化や施設周辺を含めた施設整備、及び管理運営体制など、今後の設計や施設整備に向けた重要な方針となる基本計画を策定します。
- 未来型図書館は、図書館や博物館など多面的な機能を有する複合施設であり、多世代が集う場として、市民生活の質向上と持続可能な地域社会の発展に寄与することを目指します。

1-(2). ビジョン・コンセプトに基づく基本方針

未来型図書館のビジョン

こまつを編む。こまつを巡らす。

- 基本構想策定委員会での議論とつながるミーティングでの対話を踏まえ前節で整理した4つのポイント(p9)から、未来型図書館のビジョンを「こまつを編む。こまつを巡らす。」という言葉として紡ぎました。未来型図書館ができることで、まちや暮らしで実現させたいあり方を示しています。

こまつを編む。
こまつを巡らす。



— まちの「情報」・まちの「つながり」・まちの「とき」 —

情報

多様な形態、種類、内容の情報を、その垣根を超えてつなぎ、新たな価値を生み出していきます。

つながり

多様な人、地域、文化など個々の特徴を活かしながら、関係性を強くし、つながりを生み出していきます。

とき

まちの歴史のなかにある資源(ヒト・モノ・コト・場所)を掘り起こし、未来へつないでいきます。

「こまつを編む。」

- まちの中にある多様な資源を結びつけ、価値を生み出しながら、小松の人々が自らの手で、小松というまちを編み上げていく様子を意味します。

「こまつを巡らす。」

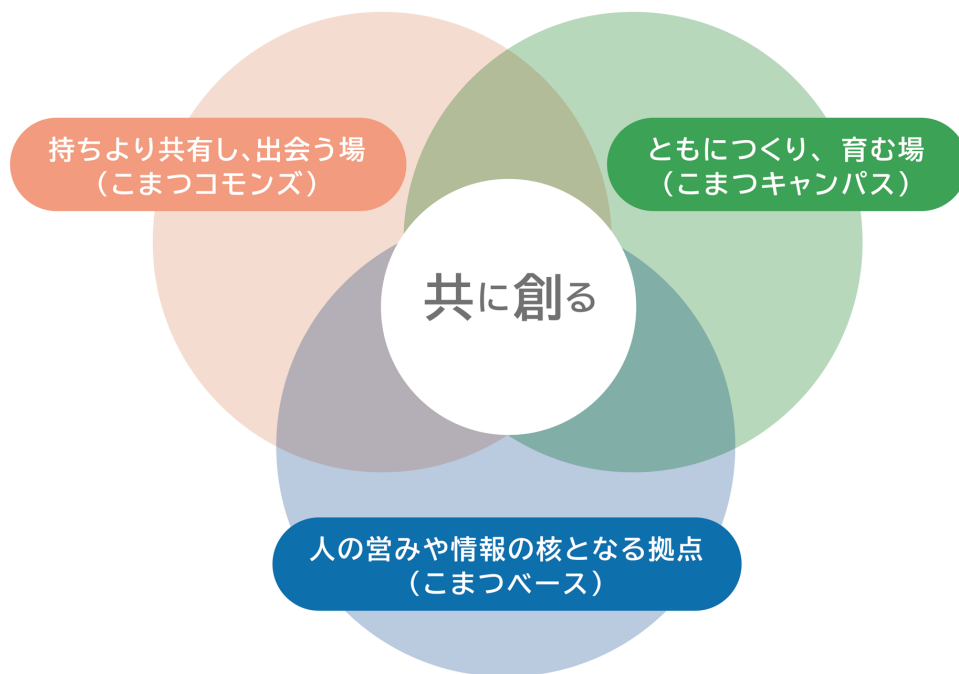
- 人・文化や歴史・情報・活動・経済等、様々な要素が地域において将来にわたって循環し、連鎖し続け、生き生きとしたよりよいまちのかたちや暮らしを持続的につくっていく様子を意味します。
- また、まちの「情報」・まちの「つながり」・まちの「とき」の3つの要素を「編む」「巡らす」対象として捉えます。

出典:小松市 | 小松市未来型図書館基本構想

未来型図書館の3つのコンセプト

ビジョンを実現するための3つのコンセプト

- 未来型図書館のビジョンを実現するための具体的構想をコンセプトとして、以下の3点に整理しました。施設が担っていく3つのコンセプトは、相互に作用し融合している関係を表しています。互いに重なり合い、補い合いながら各要素が持つ役割を発揮することでビジョンの実現を目指します。また、3つの要素が重なり合った中心には、「ともにつくる図書館をつくる」のテーマのもと、「共に創る」を据えています。



人の営みや情報の核となる拠点(こまつベース)

- 情報が垣根を超えてつながり、集約された拠点となります。地域資源(ヒト・モノ・コト・場所)の個々の特徴を活かしながら結び付け、編集して活かしていくまちの核としての役割を持ちます。

持ちより共有し、出会う場(こまつコモンズ)

- 人々が、得意なことや悩み等、様々なことを持ち寄り共有する場です。誰でも分け隔てなくそこに居ることができ、人が集まり出会うこと、やりたいことを支えていく場としての役割を持ちます。

ともにつくり、育む場(こまつキャンパス)

- 多様な人が関わり合いながらつくり、人やまちを育んでいく場です。ともに学び、ともにまちの未来を描いていく場としての役割を持ちます。

出典:小松市 | 小松市未来型図書館基本構想

未来型図書館における「未来」の定義

小松の未来を共に創る

- 未来型図書館の「未来」には、3つの小松の「未来」を創るという意志が込められています。そして、この3つの創るは、さまざまな人びとが参加して共に創る、「共創」によって進めていきます。

小松の「未来」を共に創る
～未来型図書館を実現するための共創～

まちを創る

未来型図書館は、施設の整備や運営にとどまらず、「小松市の未来」を創る、まちづくりのプロジェクトです。まちじゅうに、さまざまな架け橋を渡し続けていきます。

こと・ときを創る

未来型図書館は、未来に起こる変化の中で、暮らしや、施設を通して起こる体験（こと・とき）をつくり続けていきます。

ひとを創る

子どもは地域の未来です。未来型図書館は、子どもたちの未来を創造するための環境を提供し続けていきます。

未来型図書館の基本方針

- ・ ビジョン・コンセプト等を踏まえ、未来型図書館の実現に向けた具体的な方針を、以下に示します。

機能の融合による 新たな価値創造

図書館、博物館、市民交流・活動機能、民間機能の融合により、多様な世代や市民ニーズに対応した知と文化の拠点、新たな価値の創造拠点を目指します。

デジタル化と情報発信の強化

多様な交流、コミュニケーションが可能な情報環境を整備し、情報におけるユニバーサルデザイン(※1)の導入など、誰もが情報を活用できる環境を実現します。

多様なニーズに対応した 空間とサービスの提供

多様な活動や交流に活用可能な空間を整備し、バリアフリー環境やアクセシブルな書籍の導入など、誰もが利用しやすい環境を実現します。

市民協働と官民連携による 共創型運営の実現

市民参加型の運営ネットワークを構築し、官民それぞれのノウハウを活かした、持続可能な施設運営を目指します。

施設連携と地域全体での 文化発信

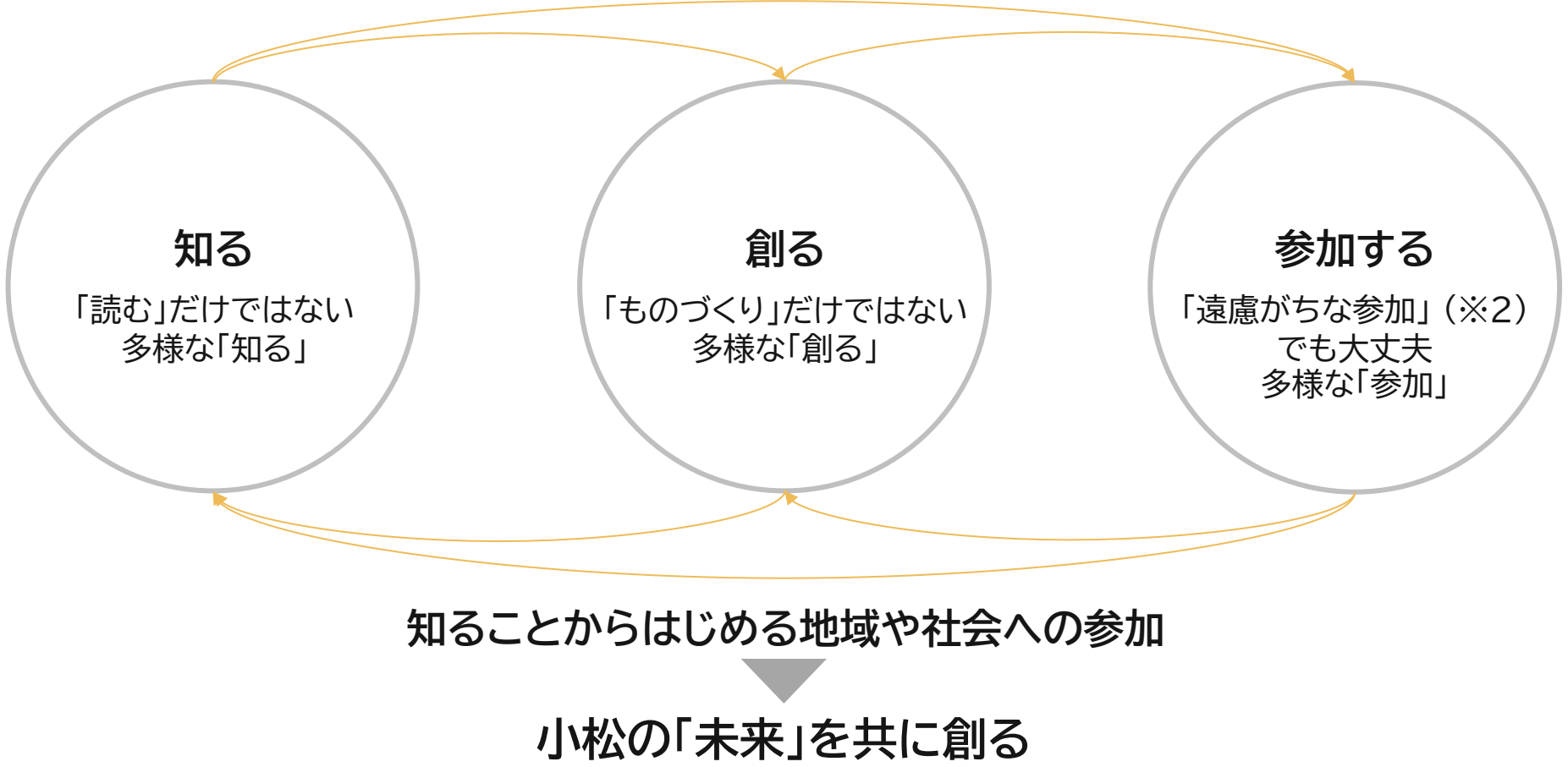
南部図書館、空とこども絵本館や美術館などの文化施設との連携を強化し、地域全体で資料を共有・保存し、文化を発信・学習する仕組みを構築します。

まちづくりとしての 未来型図書館づくり

「小松市2040年ビジョン」などの上位計画との整合を図り、新時代の象徴となる未来型図書館をまちづくりのキーステーションとして位置付けます。

※1:「情報におけるユニバーサルデザイン」とは、年齢、障がい、言語の違いに関わらず、すべての人が情報を理解しやすいように工夫することです。

「知ること」から「共に創る」へ



※2:「遠慮がちな参加」とは、活動や議論にまったく参加しないわけではないけれど、積極的に前に出ることを控えながら関わることを指します。このような「遠慮がちな」形でも、実はコミュニティ全体を支える意義ある参加のスタイルとして捉えられる、という考え方はあります。(参考:今村晴彦、他著『コミュニティのちから “遠慮がちな”ソーシャル・キャピタルの発見』(慶應義塾大学出版会、2010))

1-(3). 複合施設の主要機能の役割と連携

これまでの検討における機能のまとめ

未来型図書館等複合施設の機能のまとめ:小松市未来型図書館等複合施設官民連携事業調査報告書(令和6年3月策定)より

基本構想の コンセプト	未来型図書館の 役割(機能)	未来型図書館等複合施設の機能	
		集約機能	新たな機能
人の営みや情報の 核となる拠点 (こまつベース)	知の集積	・ 開架書架・閉架書架、閲覧席 (図書館機能)	—
	「個」の活動	—	・ 個人スペース
	くつろぎ・居場所	—	・ 広場・フリースペース(共用部との一体的な整備を検討)
持ちより共有し、 出会う場 (こまつコモンズ)	地域の歴史文化 の集積・編集	・ 展示室、収蔵庫、バックヤード (博物館機能)	—
	体験の共有・交流	・ 会議室(公会堂機能)	・ 多目的室、飲食スペース、物販スペース、キッチンスタジオ
	知・文化の共有	—	・ 市民交流スペース(共用部との一体的な整備を検討)
	施設・地域連携	—	・ 学校連携支援(図書館機能と一体的に検討)
ともにづくり、 育む場 (こまつキャンパス)	発信・表現	・ 市民ギャラリー(博物館機能)	—
	創造	—	・ 創造スタジオ、音楽スタジオ、ティーンズスタジオ
	子育て支援	—	・ キッズルーム
	活動支援	—	・ リビングラボ ・ ビジネス支援(共用部との一体的な整備を検討)
	共創	—	・ リビングラボ

社会教育施設としての役割

1. ライフステージに応じた学びの提供

- 学校教育だけではカバーしきれない幅広いジャンルや特定のテーマについて、子どもたちが自主的に学ぶ意欲を養い、情報を探し出し、身に着ける力を育みます。
- 子どもから高齢者まで、自由な発想や創造性を育むプログラムやスペースの提供により学びをサポートします。

イメージ

2. コミュニティの中心としての多世代・多文化交流を創出

- 年齢や立場を超えた人々が集い、講座やワークショップ、イベントなどの交流を通じて、知識や経験を共有する場を創出します。地域コミュニティの形成や活性化を促します。

イメージ

3. 課題解決や創造のためのリソースを提供

- 書籍や資料、データベースを提供し、市民の課題解決のためのリソースを提供します。また、市民が情報を発信・共有できる場を提供し、学び合う文化を育てます。
- インターネットやデジタルメディアの正しい活用方法を学ぶ機会を提供します。AIやプログラミングなど、未来を見据えたスキル習得を支援します。

イメージ

4. 体験型・参加型の学びの提供

- 展示物を見るだけでなく、触れたり操作したりできる体験型展示を導入します。市民参加型のプロジェクトやワークショップを通じて、学びを深めます。

5. 地域文化と歴史の継承

- 地域の伝統や歴史を次世代に伝える活動を強化します。市民からの寄贈品や情報を収集し、地域の「ものがたり」と「ものづくり」を紡ぎます。

イメージ

融合の必要性和効果

1. 公共サービスの質的向上と多様なニーズへの対応

- ・ 図書館、博物館、市民交流・活動機能、民間機能の融合によって、利用者は知ること(知識の習得)ともものやことに触れる体験を同時に得られます。これにより、包括的で質の高いサービスを提供し、多様化する市民のニーズに効果的に応えることができます。

2. 人的資源の有効活用と持続可能な施設運営

- ・ 図書館、博物館、その他のスタッフが連携し、それぞれの専門知識やスキルを共有することで、より多彩で質の高いサービスを提供できます。
- ・ 図書館の蔵書と博物館の収蔵品をコレクションとして統合的に管理・提供することで、利用者は一つの施設で幅広い情報や資料にアクセスできます。これにより、資料管理の効率化とアクセスの多様化が実現します。

3. 限られた空間の有効活用による利用者ニーズへの適応

時間帯や利用者の変化に対応した柔軟な空間設計の必要性

- ・ 図書館、博物館、市民交流・活動機能、民間機能が融合することで、空間を共有・統合し、限られた環境でも多機能な空間利用が可能になります。例えば、朝はシニアの交流スペースとして機能していた空間が、昼には親子の憩いの場となり、夕方には多世代による市民交流イベントの場となるなど、時間帯やニーズに合わせて空間の用途を柔軟に変更できます。

融合による空間効率の向上とサービス拡充

- ・ 各機能を個別に整備した場合、それぞれに専用のスペースが必要となり、空間利用が非効率になる可能性があります。しかし、機能を融合した施設では、可動式の家具や間仕切りを用いて空間を多目的に利用でき、さまざまなイベントや活動を効率的に実施できます。これにより、空間資源を最適化しながら、利用者の満足度を高めることができます。

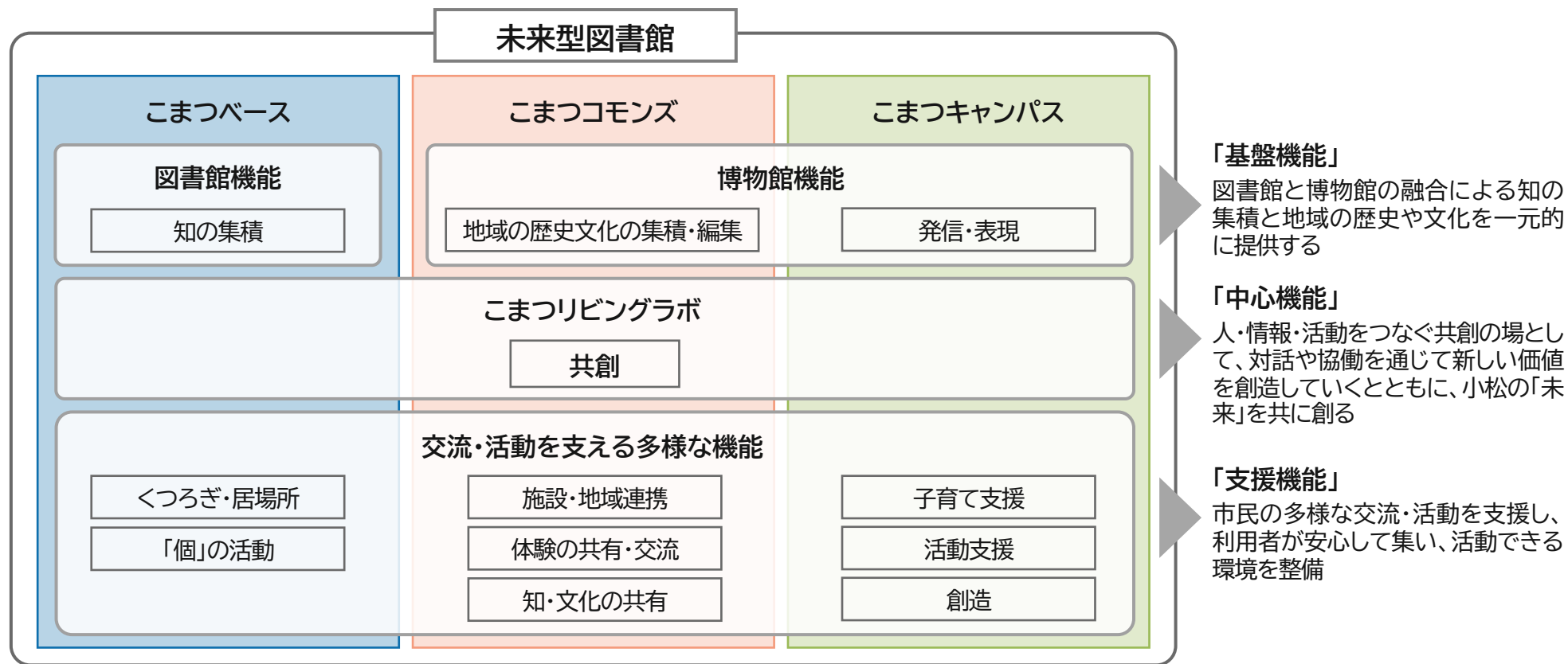
4. 新たな学びの場の創出

- ・ 書籍による知識の習得と、展示品を通じた実践的な体験が同時に可能となり、理論と実践が融合する学びの場が生まれます。

複合施設の主要機能と融合・連携

主要機能の役割と融合・連携

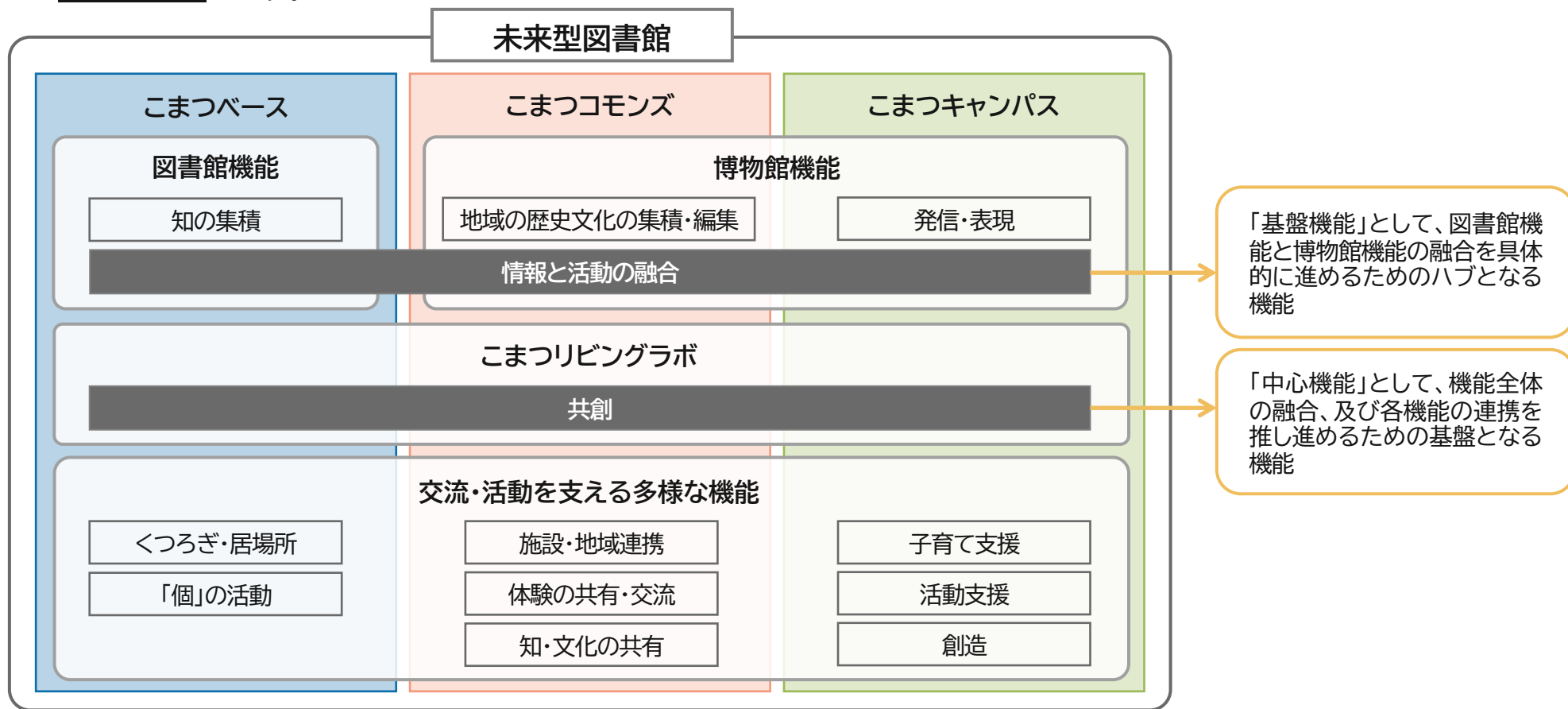
- 未来型図書館の3つのコンセプトのもと、必要と考えられる12の機能を「**基盤機能・中心機能・支援機能**」として相互的に融合・連携することにより、包括的なサービスを提供し、多様化する市民ニーズに応えます。
- 図書館、博物館等のそれぞれの専門知識やスキルの共有により、質の高いサービスを提供するなど、人的資源・物的資源の最適化を図ります。



融合をさらに進めるための主要機能の再構成

13の機能による再構成

- これまでのプロセスをふまえて整理した12の主要機能(p23)に、融合・連携の核となる「情報と活動の融合」を追加し13の機能として再構成しました。「情報と活動の融合」と「共創」は3つのコンセプトを横断する機能として、融合と連携を促進します。



機能の役割と連携

1. 13の機能を活かす連携サービスの展開

- たとえば、図書館機能(知の集積)と博物館機能(地域の歴史文化の集積・編集)を連携させ、書籍や資料を活用した新たな展示や学習プログラムを企画することで、利用者は文献的知識と実物の歴史・文化を統合的に体験できます。
- 13の機能のうち「情報と活動の融合」は3つのコンセプトを横断し、それぞれがもつ情報資源やスペースを組み合わせることで、多様なイベントや学習機会を生み出します。また、「共創」機能が中心となることで、市民・団体・事業者が参加しやすいプログラムやサービスを広げ、地域全体に新たな価値を提供します。

2. 基盤・中心・支援機能の連鎖的な連携

- 基盤機能が、施設の専門性を支える根幹として重要な役割を担い、質の高い資料や展示、発信の機会を提供します。「情報と活動の融合」は図書館と博物館の機能を相互的につなぎ、複合的な体験を生み出します。
- 中心機能の「共創」は、市民や多様な主体が積極的に参加してアイデアを形にし、課題解決や新サービス創出を促す運営上のキーとなる要素です。
- 多様な支援機能は、それぞれの立場の利用者が活用しやすい環境や仕組みをサポートし、各種イベントや学び・交流を円滑に進めます。

3. 機能連携による具体的な機能拡張のイメージ

図書館と博物館による共同企画の実践

- 「知の集積」と「地域の歴史文化の集積・編集」が連携し、図書資料と展示資料を掛け合わせた特別展を開催。支援機能の「活動支援」「創造」を取り入れて、ワークショップやトークイベント等を実施します。

機能連携によるコラボレーション活動の支援

- 「発信・表現」と「活動支援」「創造」が連携し、利用者が作品発表会や演奏会を気軽に企画できる環境を整備。さらに、「体験の共有・交流」を取り入れて、地域団体や学生がコラボしながら新たなプロジェクトを起こします。

機能連携による創造的な活動の支援

- 「知・文化の共有」と「創造」が連携し、データとものづくりプログラムの活用によりメディアコンテンツを創作します。